

皆さんも真剣に気仙沼の救急を考えてみませんか？

Q1、「医師不足って言っても本当は大したことねえんだべ？」

A1, とんでもありません。これまでの説明のように気仙沼市立病院の医師は極度の医師不足で、**ぎりぎり**の状態です。東北大学から医師の派遣を受けている当院は、市民の方の「お医者さんは大変だけど頑張ってくれている」というご理解がないと、大学の医師たちから「気仙沼の住民は理解がないから行きたくない。」と言われかねません。

Q2, 救急の翌日は医師は休みなんでしょう？

A2, 翌日の体調によっては休めることになっていますが、実際には通常の病院業務が詰まっています、**休む医師は一人もいません**。皆、眠いのを我慢して仕事をこなしています。当直の翌日に手術というのは当たり前で、徹夜の後には皆さんの手術をすることが日常となっています。今のところ医療ミスは起きていませんが、いつ起きるかわからない状況です。コンビニ受診が減れば、医師は仮眠がとれて体調が維持でき、翌日の仕事が安全にできる可能性が高まります。

Q3, コンビニ受診とそうでない受診って、どこが違うのですか？

A3, 自分の都合や便利さ、あるいは単に心配だからという理由の受診のほとんどはコンビニ受診です。自分の**身勝手**さがないかどうかをご自分に問いかけてみるとわかるかもしれません。

Q4, 救急がなくなるなんてオーバーに言っているだけなんでしょう？

A4, 決してオーバーではありません。現に平成21年4月には救急体制を組めなくなりかけました。新しい医師の確保は困難な状況なので、医師全員で話し合いを行い、当院で働いている医師は仙台の病院の医師よりも1.5倍の労働をしている状況にもかかわらず、負担は大きい一人当たりの救急当番の回数を増やすことで対応することにしました。
切羽詰まった状況だと市民の理解が得られず、これ以上の負担が医師にかかることになれば、岩手県の県立病院の医師のように市立病院の医師もどんどん辞めていくでしょう。そうなれば気仙沼地域の救急は本当に回復不可能な崩壊状態になります。

Q5, 市立病院の救急がなくなっても、他の病院があるからいいんじゃないの？

A5, 気仙沼地方の約70%（年間2200件）の救急車は市立病院に搬送されます。この膨大な救急件数を市立病院以外の病院で賄うことは不可能で、加えて、**現在、気仙沼市立病院で行っている緊急手術・治療は現実的に気仙沼では当院でしか行えません**。当院の救急機能が低下するということは、その患者のほとんどを一関、石巻、大崎、仙台のいずれかの病院に搬送しなければならないということです。

救急車の台数にも限りがあるので、それぞれ皆さんが病院に連絡をして、自分で何とかしなければならぬ状況を想像できますか？ですから、市立病院の救急は何としてでも守らなければならないのです。